

当初

短期間で終結すると予想された第一次世界大戦は長期化産業革命が進行していた日本に大量の注文が流れ込み日本の産業界は大躍進のきっかけを掴む

鈴木商店の
高畑誠一ロンドン支店長は
大英帝国相手に強気のビジネスを挑み
皇帝を商人にしたような男と恐れられ
スエズ運河を通る船の一角は
鈴木店の貨物を積んでいると言われた

金子直吉は
天下三分の宣誓書とよばれる
手紙をロンドン支店に送り
高らかに鈴木店の絶頂を宣言する
そして鈴木商店は
大正六(一九一七)年に
財閥を凌ぎ貿易年商で
日本一の総合商社に上りつめる

日本綿花の喜多又蔵は
世界一の紡績大国・英国が
戦場となったことを受け
世界の工場とよばれた
英国の輸出市場を奪うため
社員を鼓舞
世界中から綿花を調達し
綿糸・綿布の輸出を大量に行い
「綿花界のナポレオン」と
賞賛される

岩井商店は
工業化に必要なソーダ
(アルカリ)の国産化を目指し
日本曹達工業
(現・トクヤマ)を設立
海外に依存していた
ペイントの国産化を目指し
関西ペイントを設立する



米国の第二次世界大戦の参戦、ロシア革命を以て米騒動が起きるなかで鈴木商店を困難と悲劇が襲う

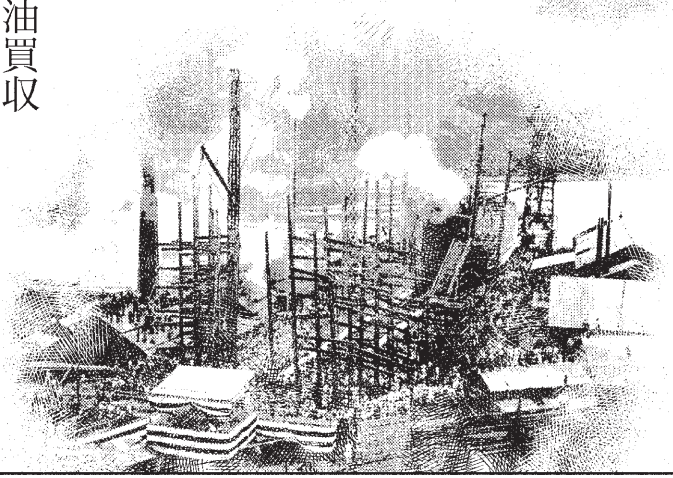
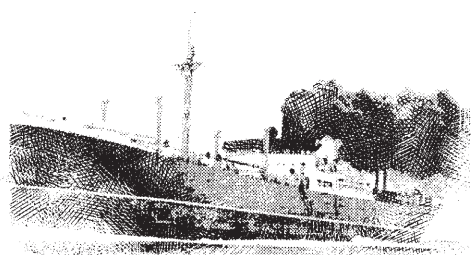
そして第二次世界大戦が終結し、パリ講和会議が開かれ、大戦不況が世界経済に停滞をもたらそうとしていた

そんななか、双日の源流の三社は、より産業界でのプレゼンスをあげ、産業界を背負い、国家を動かしていく

発想 × sojitz

第1章

鈴木商店 船鉄交換契約と帝国石油買収
(後・昭和シエル石油、現・出光興産)

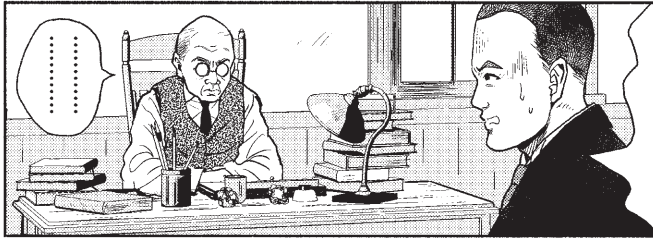




なにつ!
それじゃあ船が
造れないじゃないか
鉄飢饉で何万という
人が路頭に迷うぞ



大変ですっ金子さん
米国が大戦の影響で
鉄の輸出の禁止を
発表しました!



鈴木商店の発注量は
一二万トン
日本から米国への
鉄材発注量は
四六万トンですから
約四分の一に
あたります
政府間交渉も決裂
したそうです

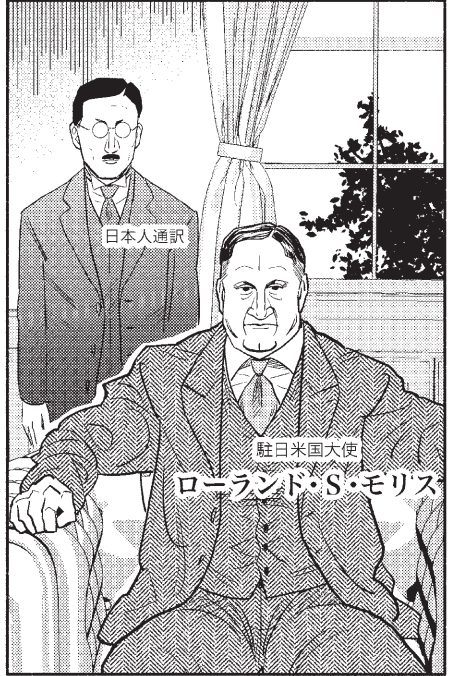


あほうつ
国ができないことを
鈴木がやるんじや!

後藤新平さんに
紹介状を書いてもらつとけ
ロンドンの松方さんにも
助けてもらおう
そして造船業界の声を
纏めるんや!



……わしが
なんとかする
東京に行くぞ
政府ができない
というのに……

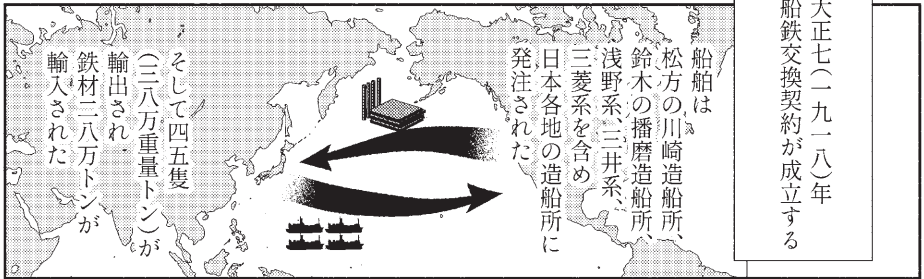


実は
交換比率も纏めてある
鉄材一トンに対し
船舶一重量トン
二次契約では
二重量トンで
どうじゃ



なんだと
……!!

※ 重量トン：船舶が積載できる重量の限度を示して船舶の大きさを表現するもの



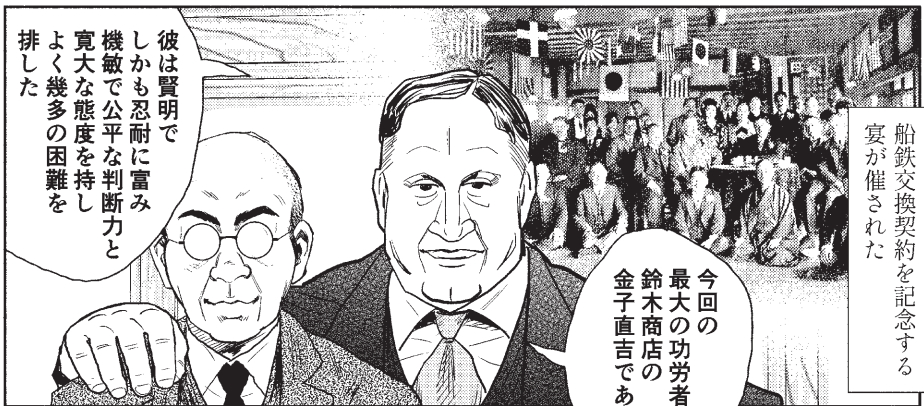
大正七（一九一八）年
船舶交換契約が成立する

船舶は
松方の川崎造船所、
鈴木播磨造船所、
浅野系、三井系、
三菱系を含め
日本各地の造船所に
発注された

そして四五隻
（二八万重量トン）が
輸出され、
鉄材二八万トンが
輸入された



金子直吉の
尽力により
日本は鉄飢饉から
救われただけ
でなく、
造船大国に
飛躍する
きっかけを
掴むことに
なる



翌年
神戸の常盤花壇にて
船舶交換契約を記念する
宴が催された

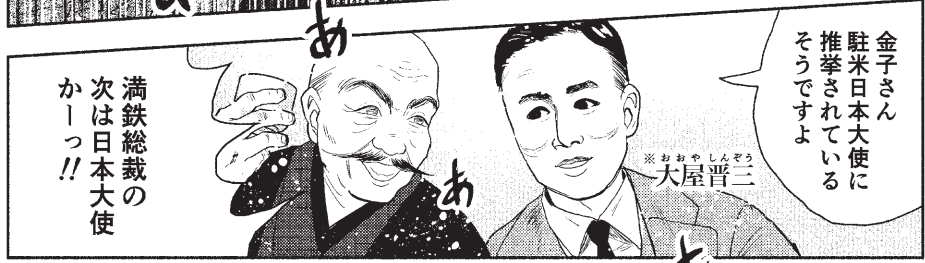
今回の
最大の功労者は
鈴木商店の
金子直吉である

彼は賢明で
しかも忍耐に富み
機敏で公平な判断力と
寛大な態度を持ち
よく幾多の困難を
排した



私は賞賛してやまない
 このような偉大な
 人物には一度も会った
 ことがない!!

おおおー!



金子さん
 駐米日本大使に
 推挙されている
 そうですね

※おおよしんどう
 大屋晋三

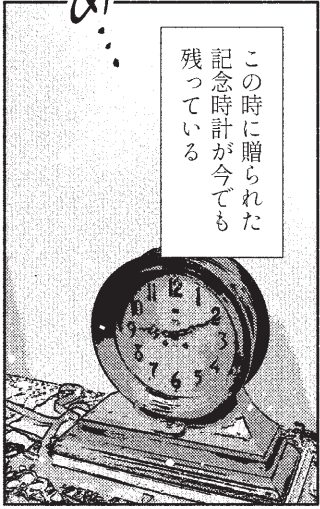
満鉄總裁の
 次は日本大使
 かーっ!!

※ 後・帝人社長、運輸大臣、大蔵大臣、商工大臣



金子直吉は
 相変わらず
 精力的に動いていた

一大快挙だったな



この時に贈られた
 記念時計が今でも
 残っている

後藤さんのおかげです
モリスとの交渉の際の
通訳は後藤さんが紹介
してくださったんですね

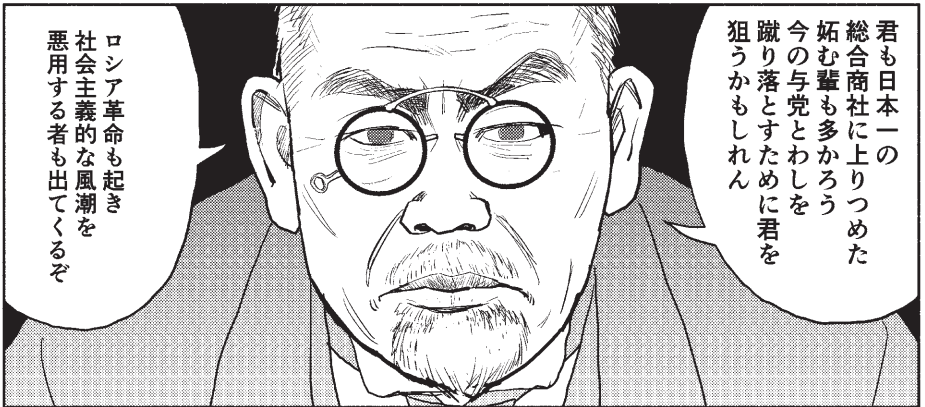


……
ところで金子君
世の中がきな臭い
気を付けたまえ



君も日本一の
総合商社に上りつめた
妬む輩も多からう
今の与党とわしを
蹴り落とすために君を
狙うかもしれん

ロシア革命も起き
社会主義的な風潮を
悪用する者も出てくるぞ



ははっ

私は日本を
豊かにするために
働いているだけです
美術品などまったく
興味がありませんし
私腹を肥やして
わけでもありません



最近は国民のために
何をしている？

昨年
豊作により
米価が暴落し
大隈重信さんに
頼まれて米価
安定のために
輸出しました

しかし今年は大凶作
今は輸入して
おるんですわ

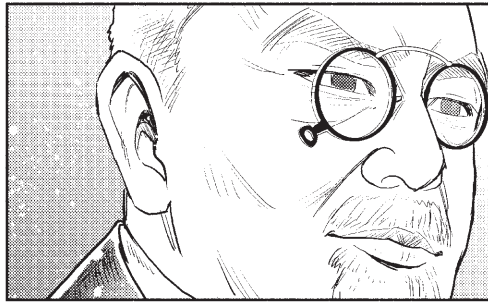
鈴木には全国の米の作柄を
見極めるやつがいますてな
某新聞の米相場の情報は
全部鈴木からなんですわ

君の
ところの社長は
よね(米)さん
というくらい
だからなあ……

そのよねさんは
大忙しでして
この前
米沢まで行って
もらいました

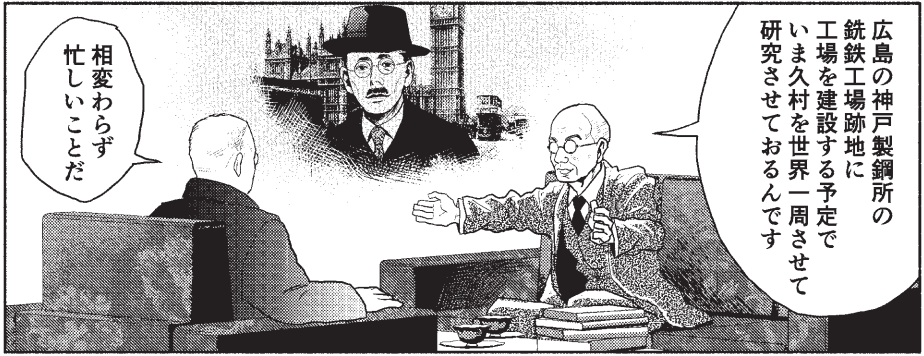
米沢に？

はいなかなか
うまくいかず今まで
ひっそりとやっていた
人造絹糸事業ですが
このたび堂々と
帝国人造絹糸
(現・帝人)として
独立させたんです



帝国、か……

世界を見ている
わけだな



相変わらず
忙しいことだ

広島
の神戸製鋼所の
銑鉄工場跡地に
工場を建設する予定で
いま久村を世界一周させて
研究させておるんです



それから

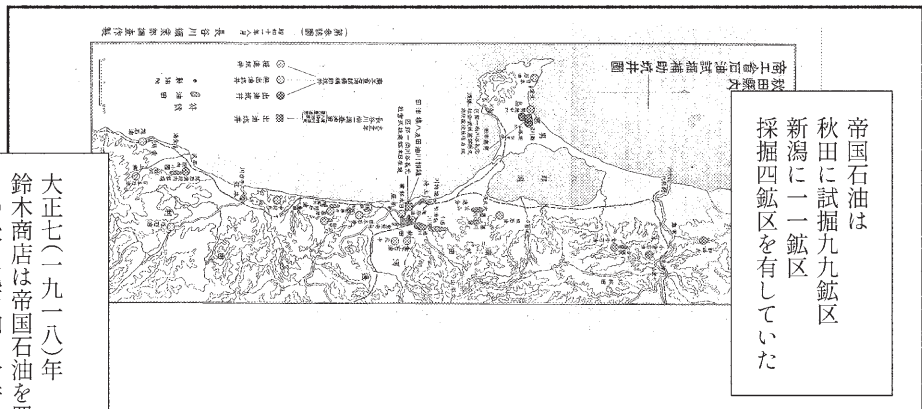
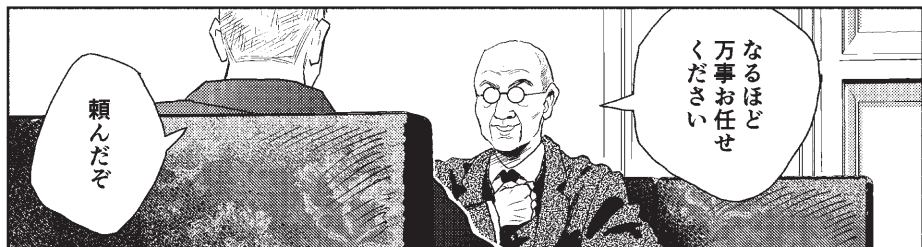
もうええ
煙突男の話は
尽きんからもう
……



九州では
地元財界と佐賀紡績
(後・大和紡績、現・ダイワ
ボウホールディングス)を
設立しました
大里製粉所の小麦用の袋を
製造してもらおうかと

ところが困ったことに
紡績機械を運んでいた
船がドイツ潜水艇に
撃沈され急速インドから
調達しましたわ……

※戦後、吉田内閣の経済顧問、産業復興公団総裁

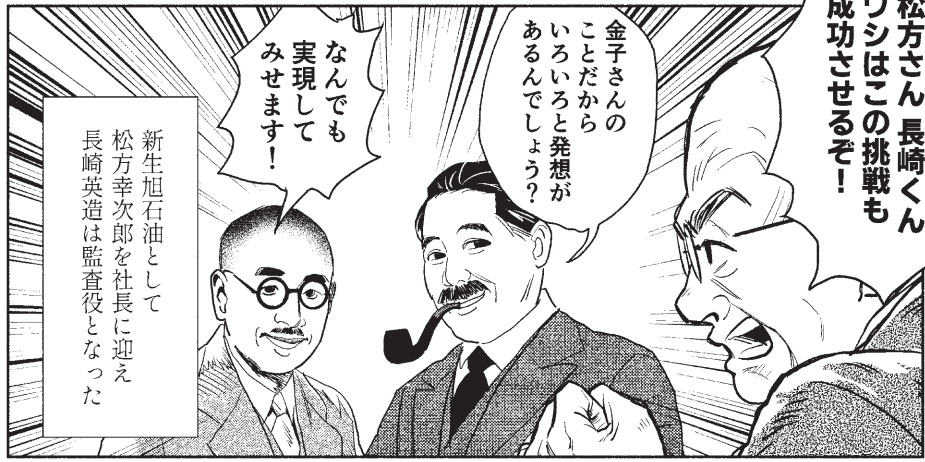


松方さん 長崎くん
ワシはこの挑戦も
成功させるぞ！

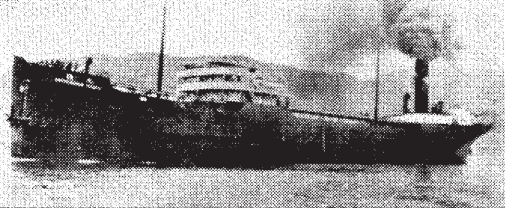
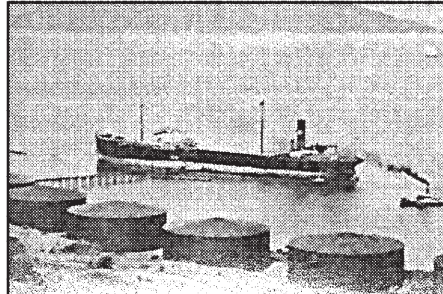
金子さんの
ことだから
いろいろと発想が
あるんでしょう？

なんでも
実現して
みせます！

新生旭石油として
松方幸次郎を社長に迎えた
長崎英造は監査役となった



鈴木商店の参画以降
秋田県道川油田にて
日産八〇〇石の生産に
成功したのを皮切りに
事業は大展開する
山口県徳山の日本金属の
非鉄工場を閉鎖し
製油所に転換
ペルシヤから原油を
輸入して精製を開始
播磨造船所にて日本初の
民間大型タンカーを建造
自社タンカーで外油を
輸入したのは鈴木商店が
最初といわれている



鈴木商店は
満州から
欧州へ大豆油を
その後米国にて
鉱油を満載して
旭石油の
徳山製油所
他への輸送網を
構築した

なお長崎英造は
鈴木商店破綻後に
早山石油、新津石油との
三社合併を実現させ
昭和石油(後・昭和シェル石油、
現・出光興産)設立に尽力し
初代社長に就任する
ことになる

會社合併公告

早山石油株式會社
旭石油株式會社
新津石油株式會社

